

ね

と

月刊 おかじょうき

おかげのき

<http://www.okajoki.com/>



た

す

な

ま

ね

す

こ

わ

あ

あ

あ

2026

3

無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	4
会員雑詠集「無人駅」	7
■例月句会結果■	
おかじょうき川柳社 2月ステイホーム句会	19
十和田たてがみ川柳会 1月句会報	24
チャッピーの人間観察録「待 AI 室」	23
Infomation	28～

月刊おかじょうきを

ど～～しても紙で見たい！

というあなたへ

2月号から紙の柳誌発行を止め、電子柳誌だけの発行に移行しましたが、皆さんには「絶対、電子だけで見てください！」とやっているわけではありません。経済的に余裕のある方は（といっても月数百円くらいですが笑）、製本された形ではないですが、紙に印刷して読む方法もありますので、以下の方法の中から、ご自身の周辺の環境に合った方法でお試してください。

【方法①】PCとプリンターで印刷する

お家にパソコンとプリンターがあれば、電子柳誌をお好きな大きさの用紙に印刷すればOKです。

【方法②】スマホとセブンイレブンで印刷する

右のアプリを使って、お近くのセブンイレブンのコピー機でスマホで印刷することができます。



【方法③】スマホと近くのコンビニで印刷する

右のアプリを使って、お近くのコンビニ（ローソン、ファミリーマート、ミニストップ、ポプラ）のコピー機から印刷することができます。



【コンビニでのプリント参考価格】

A3モノクロ1ページ：約20円 / A3カラー1ページ：約100円
見たいページだけ印刷して節約するのもアリですね！

カンテラ

むせし

連日の大雪で、青森県内の鉄道は奥羽線も五能線も津軽線も青い森鉄道も運休が続き大混乱となった。

テレビの全国ニュースで大雪が話題になると決まって青森市が取り上げられる始末。

青森市内は積雪が一時180cmを超え、道路はどこもかしかも極端に狭くなり、路面も凸凹が激しく車がスタックするようになった。

そんなわけで、当柳社の2月例会会への参加者数は極少と判断しステイホーム句会とした。

ご理解を賜りたい。
 それでは、カンテラに明かりを点しましょう。

A群

雪ペラの幅で雪との話し合い 坂本清乃
 ズビズビドウ今夜も鍋を叩いてる 笹田隆志
 いさぎよすがたでプリンふたつみつ 鳴海賢治
 雪のんのお隣の鳶埋もれている 吉田州花
 犬、猿はまだもめている雉が来た 葉 閑女
 「ライムライト」の台詞が響く古稀の靴 吉見恵子
 春三月の産毛が空に飛び出した 土田雅子
 みずからのなみだでとけたゆきおんな 嵯峨山登
 帰る場所「ページが存在しません」 月波与生
 それぞれにどん底があるから次へ 三浦蒼鬼

あの人と同じ抱きしめ方は嫌

須藤しんのすけ

いい加減泣き虫の振り止めようよ

まきこ

雪解けの右半身がきこちない

熊谷冬鼓

狂ってもみたいでしょうに冬の月

斎藤泰子

斎藤泰子さん、「冬の月」は、冬の寒く澄み切った夜空にひとときわかるくつきりと冴えわたって見える月のことですよ。冷え切った空気の中で青白く輝く姿は、静寂や冷徹な美しさ、荒涼とした寂寥感、孤独や緊張感を感じさせます。美しすぎるがゆえに「狂ってもみたいでしょうに」なのです。

B群

カーペットに隠した箸のゴミがない 安藤なみ
 懐かしい声が聞こえる北枕 夏草ふぶき
 女偏いま真つ黒で病んでます 田中 薫
 佃煮つくれるくらいあるわよ劣等感 きこぎ彼句吾
 わたくしが沸騰したら蓋をして 辻井洋子
 見送るって冬の青空みたいだね 守田啓子

思い出を薬指から聞く小指

柳本恵子

右脚とはぐれてしまった左足

小野五郎

小野五郎さん、「足」は足首から下もしくは靴を履く部分のことで、「脚」は足首の上から腰の部分までのことですよ。 「右脚」と「左足」、どうしてはぐれてしまったんでしょう。因みに、「はぐれる」は、同行の者を見失う、あるいは他の人にまぎれてつれの人から離れること。ということで、五郎さんの「左足」はどうなってしまうのでしょうか。

C群

ご破算は最中バシッと割ってから 峯島 妙
 ウソつくときギョーザが一個多くなる 木下香苗
 ハムサンドにはやんばるの森はさんでね 宮井いずみ
 ニッポンをついてまあるい餅にする 芝岡かんえもん
 割り算のあまりのような晩ご飯 米山明日歌
 峯島妙さん、「ご破算」は「そろばんで先に数を置いた珠をくずし払うこと」ですが、この句の場合は「今

までやって来た事を、最初の何もなかった状態にもどすこと」のようですね。「最中」は、「さいちゆう」でも「さなか」でもなく「もなか」で、和菓子のことですよね。それを「バシツと割ってから」って何だか凄いなあ。「ご破算」と「最中」の関係がよく分からないのですが何故か納得してしまう句です。どうしてなんでしょう。

木下香苗さん、あの…、私、「ギョーザ」をもう一個欲しいので「ウソ」をつきます。よろしくお願いします（汗）

宮井いずみさん、「やんばる」は『やん・ばる【山原沖縄県、本島北部一帯の通称。ヤンバルクイナ・ヤンバルテナガコガネなどの希少生物の生息地。国頭（くにかみ）地方。』（広辞苑第七版）のことですよね。「ハムサンド」は、薄切りのハムを挟んだサンドイッチのこと。「やんばるの森」を挟んだ「ハムサンド」って、ヤンバルクイナとかヤンバルテナガコガネとかが中に

いるんだよね。咀嚼できるかな…。

芝岡かんえもんさん、「ニッポン」は「日本」で、私たちが住んでいる国のことですよ。それを、白に入れて杵で搗いて「餅」にするなんてかんえもんさんにしかできません。搗いた「まあるい餅」をどうするのでしょうか。やわらかい内に食べてしまった方がよさそうだけど、うまいのかな…（汗）

米山明日歌さん、「割り算のあまりのような晩ご飯」って、もちろん米山家の夕食のことではなく、創作ですよ（笑）で、この夕食はあまり美味しくないような気がするのですが、句は、何度もワオ！って叫んでしまいそうな魅力があります。

おかしなうき加柳社会賞雑詠集

無人駅

★無人駅2月月間賞

東京にずっと住んでる苺ジャム

芝岡かんえもん

奥田悦生

【おくだえつお・三重県伊勢市】

ホワイトアウト金銀銅が最高値
これからもまだもう少し飛べるはず
喜寿なれど心は若い丙午
若水を汲んで清める姫始め
鼻からは大腸カメラ入らない

金瀬達雄

【かなせたつお・富山県高岡市】

帰還兵の顔でキャベツを喰らう朝
竈より狼煙気になるナタデココ
セクト的眩暈の渦に進む船
ネバネバ猫パンチ高速右フック
天界の光をもつとゲート殿

先月号の
お気に入り

先月号の
お気に入り

おれ空き地報・連・相のやけのはら 西脇祥貴
現代川柳という器に私情と詩情とが溢れている。

小野五郎

【おのごろう・青森県青森市】

頁岩の記憶地を這う冬の蠅
右脚とはぐれてしまった左足
人穴に根掛かりしている大腸筋
ボンノクボ露出している鉄鉱床
空気振動ファムファタルとすれ違う

きさらぎ彼句吾

【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

佃煮つくれるくらいあるわよ劣等感
欲しい物リストの隅っこでいいのよ
月夜の蟹だな百年吼えたつて
畏くも天皇家にも袋とじ
打ちのめす語尾をキンキラリンにして

先月号の
お気に入り

先月号の
お気に入り

「きつと今だ」は甘みそだれで戴くわ 宮井いずみ
「戴くわ」なんて、チャンスを前にして余裕たっぷり、そ
の上甘みそまで絡めてたべるのね(笑)。

木下香苗

【きのしたかなえ・滋賀県草津市】

To be, or not to be 学生街の葱ラーメン
口に残るネギの味ごと生きていく
相手にはするな五重塔だから
ウツつくとギョーザが一個多くなる
まん中と外とはしつこ新年会

小松憲一

【こまつけんいち・宮城県亘理町】

三世代泣いて笑って半年
ガリバーの寸法つらい五尺五寸
知恵比べ孫にかなわぬ苦笑い
三世代共働きは五時起きで
行きはママ帰りはパパの保育園

先月号の
お気に入り

先月号の
お気に入り

渋柿の深いため息聞いちまっつ 守田啓子
干し柿は深いため息で渋を吐き切って甘くなるのですね。

熊谷冬鼓

【くまがいとうこ・青森県青森市】

無気力な鎖骨にドドンと胡蝶蘭
春蘭でいたいと五徳磨いている
雪解けの右半身がぎこちない
正座して動体視力は中の中
耳ざわりいいのは風が温いから

斎藤泰子

【さいとうたいこ・秋田県大館市】

子を産んだ街をたずねてみたくなる
冬木立見る人は見えていますから
転んでも負けても家に帰るのよ
狂つてもみたくいでしょうに冬の月
しあわせになる考え方を考える

先月号の
お気に入り

先月号の
お気に入り

海賊の情婦あるいはヒメマリモ 葉閑女
本のタイトルならつい手が伸びそう。思わせぶりがいい。

柔らかい芯染まらぬように生きている 宮古中子
芯は柔らかでいたい。色はほんやりして欲しい。

坂本清乃【さかもときよの・青森県蓬田村】

プーチンの暗殺者いる理髪店
雪ベラの幅で雪との話し合い
煮崩れた理想に黒酢かけて喰う
手折られてなるかひまわり奮闘中
新年の訃報裏を突き破る

先月号の
お気に入り

嵯峨山登【さがやまと・佐賀県大和町】

緋けば若氣ばかりの覚書
ジム廻るトムがどうして裁かれぬ
憂い顔推しは王子にあらず騎士
資本論読んで立ち上がったヤフー
みずからのなみだでとけたゆきおんな

先月号の
お気に入り

アケマシテボクラハミンナイキテイル Sin
悼みの言葉でしようか、それとも…正月は冥土の旅の
里塚めでたくもありめでたくもなし一休

城後朱美【じょうごあけみ・福岡県八女市】

七十の決意自分に甘えない
お隣の空き地の草も枯れている
十歳の孫の由来になつて候
前期高齢うざいと言われる歳になり
十日間留守を守ってくれた猫

先月号の
お気に入り

この場面どう切り抜けるか崖っぷち 村上あつこ
夫がいても、母がいても、1人で決断してました。

Sin【しん・青森県外ヶ浜町】

失敗に終わった影絵1440
白の横で三寒四温を繰り返す
遠回り 今日で2月が終わります
ハイボールのK点付近が住みにくい
運転手さん 近道みたいな月ですね

先月号の
お気に入り

革命の度におねしよをしましょう 尾崎良仁
大変ですね(汗)でも、赤ちゃんも毎日、その子にとつ
ての「革命」が起きているからおねしよしているのかも。

笹田隆志【ささだたかし・青森県青森市】

生と死をひょうたん島でひつたくる
積ったのは四暗刻の白白白
頬を刺す般若心経三日間
ズビズビドウ今夜も鍋を叩いてる
さてどうするか金の延べ棒墓じまい

先月号の
お気に入り

幸福な王子がくれた柿の種 米山明日歌
柿の種をくれた幸福な王子とはどなたでしょうか？

芝岡かんえもん【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市】

ニッポンについてまあるい餅にする
嘘でしようダルマが全部ころんでる
鮮やかな刺繍で騙す女
逢うことはほどほどに骨舐めること
桃缶に囲まれている来世なり

先月号の
お気に入り

渋柿の深いため息聞いちまう 守田啓子
聞いちまうが素敵。聞かれちまった渋柿の動揺はいかに。

須藤しんのすけ【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

声変わりフルートたちのズル休み
プラマイのプラを歌舞伎町にもらう
ビートルズみたいに行く歩道橋
あの人と同じ抱きしめ方は嫌
鶏小屋の中 国が悪さする

先月号の
お気に入り

梟の鳴かない夜更け飴を噛む 亥の一
自然界が静か過ぎるのも、飴を舂めずに噛むのも、精神衛生上良
くないらしい。ストレスを溜めずに、夜は短し騒げよ乙女である。

高木まあこ【たかぎまあこ・青森県黒石市】

さらりポン思わねばこそと思うけど
真っ只中で泣いていた幸せだったワタシ
だとしても織り続けたい布がある
カモンカモン無限の前の浪たちよ
咽び泣く横顔モアイがじつと見る

先月号の
お気に入り

じゃんけんに勝ったら青い空になる 三浦蒼鬼
私とじゃんけんしまししょうーきつと勝つよー!

瀧尻善英【たきじりよしひで・青森県八戸市】

ケアマネの顔 マシユマロに見えてくる
ババ抜きのパバと相性いいようだ
浮雲の布団で暫し白昼夢
善を積み積んで天国まで昇る
求めれば欲極めれば出来る道

先月号のお気に入り
建付けが悪くなってる股関節 村上あつこ
最近、加齢とともに股関節が固くなってきている。体幹の安定を図るためにもトレーニングしなくっちゃ。

田中 薫【たなかかおる・青森県弘前市】

甘露飴ワタシの音に酔ってる日
一本道ズレたところで生きてます
ナゾだらけブラックホールで待ってます
色なんてぜんぶぜんぶがねずみ色
女偏いま真っ黒で病んでます

先月号のお気に入り
三日月の骨はきれいに取っておく 須藤しんのすけ
あつたう下さい。良いことありぞ。

土田雅子【つちだまさこ・青森県青森市】

春風やガングリオンのご機嫌は
稜線をかじり取って春の猛者
塩麴の春はちよっぴりやんちゃです
後出しジャンケンにも負ける陽春
春三月の産毛が空に飛び出した

先月号のお気に入り

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

懐かしい声が聞こえる北枕
北からの訃報うっかり飲んじゃった
波らしく激しく揺れてみたいんだ
それらしく振舞えたなら大人です
風水で決めた水場で煮る南瓜

先月号のお気に入り
もう少し人間でいるつもりです むさし
人間を演じてるんだと知ってました

月波与生【つきなみよじょう・青森県大鰐町】

404君を探したひとりの夜
帰る場所「ページが存在しません」
SNS 死んだフォロワーばかり増え
わたくしの顔だけ解像度が低い
「どこか」へは行けず「どこ」でもない」に居る

先月号のお気に入り

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

出来たことあれこれ入れてレジに行く
凍てつく日暖まれるか花を買う
描いてと終る牡丹に頼まれる
わたくしが沸騰したら蓋をして
新品の鍋とレシピ話し合う

先月号のお気に入り
平凡な生い立ちなりの秋日和 斎藤泰子
納得の穏やかさで、いいね！

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

いさぎよいがたでプリンふたつみつ
ふんだりけつたりですあめゆきあられ
クリップでつづられた犯人逮捕
バイキング料理ですわたしバカよね
時間には余裕をもって雪が降る

先月号のお気に入り
問い詰めてみたらマロ二エだったのよ 葉閑女
私の気持ちにストンと落ちました。

nes【ねす・兵庫県神戸市】

星ひとつふたつみつと火砕流
取り合ってくれない桃は腐りかけ
ギロチンの艶に眠気を誘われる
縁起がいいよと渡される豚骨
しめ縄をやさしくやさしく読み上げる

先月号のお気に入り
なるようにならないようにおまじない まみどり
「なるようになる」という慣用語をこう使うかと驚きました。批評的な目線がとても好みます。

舟木小柳【ふなきこりゅう・青森県青森市】

冬嵐魔笛を吹いて立ち向かう
難聴を防いで防ぐ認知症
この国の方位磁針が折れている
新生児拳に銀河握ってる
卵焼き砂糖と塩が競い合う

先月号の
お気に入り

人も熊も採ってくれない柿撓わ 坂本清乃
その柿、とても美味しそつですから、カラスが狙って
いるかもしれません。

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

残してはおります程々のくびれ
お見せするほどのものでもないけれど
めりはりのない距離感に注意せよ
違和感に愛想している微炭酸
不完全燃焼だった頃のこと

先月号の
お気に入り

エレベーター上りつめれば星の駅 吉見恵子
ステキ、で下がったら龍宮城かしら。

まきこ【まきこ・青森県青森市】

憂いなく三食しつかり食べる日々
わたくしの味方ばかりだきつとそう
いい加減泣き虫の振り止めようよ
ヨイショしかできない女だとしても
陽だまりの中で自由を抱き締める

先月号の
お気に入り

三浦蒼鬼【みうらそうき・青森県黒石市】

優先順位ある神様の言う通り
寝不足に慣れて気絶を繰り返す
薄っぺらになった記憶が愛おしい
それぞれにどん底があるから次へ
「誕生日おめでとう」から昼の月

先月号の
お気に入り

峯島 妙【みねしまたえ・大阪府大阪市】

羽衣とどこでもドアを通り抜け
恋終わる予感いつもの片頭痛
ご破算は最中バシツと割ってから
言い訳がはちきれそうな終列車
一等星ばかりの夜はつまらない

先月号の
お気に入り

夢なんか持ってしまった生命線 斎藤泰子
そんな謙遜しないで夢もってください、もちましょつよ。

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

痛みさえなければきつと頑張れる
太く短く笑って生きるはずだった
金婚式まであと5年生きよう
貸し切りタクシーで巡る遍路旅
夢の中みんな若くて笑ってる

先月号の
お気に入り

のみこんだ言い訳を吐く秋の空 村上てる
言い訳は秋の空に吐き出しましょう。きつとスキリす
る。

宮井いずみ【みやいいずみ・大阪府大阪市】

ベビーカーに乗っているのはお兄ちゃん
東から巻いてポタポンこもりうた
ハムサンドにはやんばるの森はさんでね
ならいつそチョコのまんまでいようかな
斬れないけれど研いでも黙れない

先月号の
お気に入り

海賊の情婦あるいはヒメマリモ 葉閑女
ヒメマリモは山中湖に生息してはいないのにちゃっかりP
Rゆるキャラになっているんですよ

守田啓子【もりたけいこ・青森県三沢市】

冬が来る律義に雪が降ってくる
寒いからけどのにアイスクリーム
ドリンクを飲むか寝るか笑うかでしょ
見送るって冬の青空みたいだね
さつきから早春のピンポンダッシュ

先月号の
お気に入り

スーパームーン開脚前転できた頃 辻井洋子
50年も経つんだものしょうがないですね。。。

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

思いで葉指から聞く小指
春一番紫の衣を纏って
結び目の一つ一つに感情論
結び目ほどけ お口チャックの秘密
思いで一緒の絡め糸車

先月号のお気に入り

ボタンの掛け違いな関係なの
人間関係のあるあるの一つですね。
田中 薫

葉 閑女【ようかんによ・青森県青森市】

やわらかな陽射しといきなりの雷雨
低気圧みたいに居座るの止めて
犬、猿はまだもめている雉が来た
出る前に跳べって、選挙のことじゃない
カーテンはパステルカラー はあーるよ来い

先月号のお気に入り

箱詰めの白夜が来るのを待っている
小分けにして誰かに配るつもり？
小野五郎

四ツ屋いずみ【よつやいずみ・北海道札幌市】

信じてみるか冬のビブラムソール
足湯の効果ワイキキへ到着
両の手で推しただこう寒卵
小蠅飛ぶ何かの暗示？日曜の
ワイパーでひと拭きこれでご破産で

先月号のお気に入り

イマジンの真ん中へんに作る首都
瀧尻善英
いいですね！行ってみたいいなその首都へ

米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

以下余白 ここから君は桃になる
道ならぬ匂いをさせるじゃがバター
割り算のあまりのような晩ご飯
現実は三日三晩の熱をだす
白菜の断面に絡むほつれ毛

先月号のお気に入り

ボタンの掛け違いな関係なの
私にもいます。そおいう関係の人。
田中 薫

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

水になる水になろうを鎮めましょ
迎えには来ない男の数ならば
昨日今日果てが見えない野の朧
シヤベル金槌重たくなってゆく香り
雪のんのお隣の蔦埋もれている

先月号のお気に入り

杜鵑草この世は生きる人のため
そういう事にいたしましょう
吉見恵子

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

一生は一瞬だった遠眼鏡
椅子修理人間修理胃腸薬
「ライムライト」の台詞が響く古稀の靴
広重の「夜の雪」降る誕生日
春の旅 花追い人と道祖神

先月号のお気に入り

安藤なみ【あんどうなみ・愛知県瀬戸市】

新聞のパズルに嵌まる年始め
針穴を抜けてくる一つ目小僧
節分の鬼がいたたくバイト代
カーペットに隠した箸のゴミがない
食レポの裏声真似るお客様

先月号のお気に入り

人間味のレシピは料理の本にない
微妙ゆえ、楽しい。
村上てる

一帆【いちほ・秋田県秋田市】

お祭りが終わるとひと時の静寂
手のひらで長男ひとり騒がしい
次の世でまた会いたいと天の川
じわじわと高齢者粹獣臭
ジョーカーは次の番まで眠らせる

先月号のお気に入り

亥の一【いのいち・青森県青森市】

密談のつもりがま麻雀まっいいか
会食をすればビンタが張れません
ささやきも撚り合わせたら鉄になる
糸一本守って来たと胸を張る
あすなろう今日は遊んでいいかしら

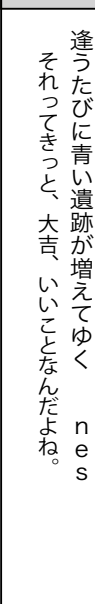
先月号の
お気に入り



戎 踊兵【えびすようへい・青森県外ヶ浜町】

唇が厚い悪そな猫が居る
新聞の天声人語に騙されて
海底の空を見るのに良い深さ
手の平に唐草模様を張り付ける
せせらぎを聞かせてくれる焚き火台

先月号の
お気に入り



むさし【むさし・青森県蓬田村】

右眉の端に居座る寒気団
タテガミが北へなびいて眠れない
西高東低それが何だと雪が降る
お前まだ生きているかと来る電話
バーボンをグイッと飲んで「ぬ」になった

無人駅は自由な発表の場です。
未発表作品5句をお寄せください。
また、お手元の最新号から、お好きな作品とそれ
に対する簡単なコメントもお寄せください。



2月7日(土)

▼投句者(38名):安藤なみ・佐藤雅秀・原口健二・まみどり・嵯峨寛之・小松憲一・坂本清乃・辻井洋子・城後朱美・村井規子・まきこ・きさらぎ彼句吾・高木まあこ・熊谷冬鼓・守田啓子・小野五郎・峯島妙・nes・須藤しんのすけ・嵯峨山登・柳本恵子・木下香苗・芝岡かんえもん・月波与生・宮井いずみ・むさし・村上あつこ・米山明日歌・郷田みや・四ツ屋いずみ・夏草ふぶき・土田雅子・舟木小柳・鳴海賢治・笹田隆志・葉閑女・戎踊兵・斎藤泰子

おかじょうき川柳社

2月ステイホーム句会

※青森市が大雪で交通が麻痺していたためステイホーム句会に切り替えました。

宿題『丸々』

奈良県奈良市 柳本恵子選

【佳作】

雪かきにだいだらばつち派遣する
 公約を丸々信じていいですか
 雪穴で丸々三日待つていた
 冬眠はやめて雪だるまになろう
 ○○と一緒に旅つづいてる
 ストレスがあるのか丸々の猫よ
 わたくしを丸々知ろうなんて 無理
 打たれ強いのはぼんぼんじゃない方の鞠
 貯め込んだ大福全部出しなさい
 ミサイクルを止める丸々した指で
 丸々7年施設で暮らし逝った母
 身代わりにカボチャ丸々置いておく
 丸々と太ったキリンを呼んでくれ

安藤 なみ
 原口 健二
 村上あつこ
 まみどり
 小松 憲一
 城後 朱美
 斎藤 泰子
 きさらぎ彼句吾
 小野 五郎
 木下 香苗
 村上あつこ
 郷田 みや
 む さ し

串団子食べ終わったら鐘みつつ
 丸々とした顔で上手に嘘をつく
 多数決丸々太つていく正義
 まる2つあればこの先も樂觀
 丸々と太つて海を渡りきる
 眠られぬ夜まるまると紡ぐ夢
 規格外を丸々入れて抽象画

鳴海 賢治
 ま き こ
 木下 香苗
 四ツ屋いずみ
 鳴海 賢治
 葉 閑女
 郷田 みや

【五客】

○●にはまる二音が揉めている
 楯円じゃ駄目ですかグレーじゃ駄目ですか
 わたくしを丸々奪う君の指
 丸々とそろえた四十九日餅
 ○●に入る答えのないクイズ

斎藤 泰子
 きさらぎ彼句吾
 米山 明日歌
 葉 閑女
 峯島 妙

【人位】

こんもりと雪 円周率を裏返す

土田 雅子

【地位】

JPCZ鎖骨についた雪ダルマ

坂本 清乃

【天位】

肉球で撫でると丸くなる明日

宮井いずみ

↑ 少々やさしい気持ちになりました。

宿題『胃』

北海道札幌市 四ツ屋いずみ選

【佳作】

胃の隅にきのうの嘘がふたつある
 胃袋に力んだキミの指の跡
 つまんで食べた それは別腹でした
 姉さんが輪ゴムでとめた胃痙攣
 胃袋の中まで届く果たし状
 飽食を咎めて震度5の胃痛
 胃カメラに映る紀元前の潮目
 ひたひたと胃酸過多実家の後始末
 白湯啜るやつとあなたに逢えました
 百人の胃袋がする生あくび
 海王星冥王星と胃に溶かす
 鳩尾にじつとしていたシクラメン
 気まぐれに胃壁を登る蝶の脚
 大雪と大食漢の相似形

ま き こ
 須藤しんのすけ
 鳴海 賢治
 宮井いずみ
 米山 明日歌
 葉 閑女
 安藤 なみ
 小野 五郎
 高木まあこ
 月波 与生
 月波 与生
 高木まあこ
 戎 踊兵
 辻井 洋子

春時雨ふる予兆かな胃痙攣
 付度をしたらゲップが止まらない
 胃カメラに写ってしまう喜久泉
 反芻を覚えてくれた十三夜
 叶わない夢を胃液で溶かしてる
 青い鳥の胃袋だけを綴じている

笹田 隆志
 佐藤 雅秀
 峯島 妙
 宮井いずみ
 夏草ふぶき
 月波 与生

【五客】

受け止めて地道に生きる昆布出汁
 胃袋に流すギターのいい音色
 鮫鱈の胃から出て来たレア・アース
 胃袋の永遠の友がはずはず
 孤独死の友が食べていた干飯

坂本 清乃
 ま き こ
 戎 踊兵
 嵯峨 山登
 夏草ふぶき

【人位】

始発電車がひっそりと吐いている

n e s

【地位】

生き方がロックわたしは胃がよわい

木下 香苗

【天位】

反芻してもしてももたれる雪五尺

きさらぎ彼句吾

↑ 「してもしても」にこの冬の大雪へのうんざり感が伝わってきます。

宿題『自由詠』

神奈川県横浜市 芝岡かんえもん選

【佳作】

蟬梅のお庭に落ちていた偽名
 Tシャツに沈む夕陽の滲む音
 引き際はもう決めてある春の宵
 わたくしの光と影に気づく時
 酸化劣化骨とう品になる修行
 前菜の後に出てくる大増税
 のど飴を舐めて奈落を確かめる
 指先に語尾が濁ったまま凍る
 押し葉から亡き友の笑い歌声
 待ちぼうけ飾りボタンのまま錆びる
 うそ寒くないか孤独を引きずって
 五歩下がる後ろ姿が好きだから
 酒を呑む振りして人を呑んでいる
 ふがいない位置に沈んでゆく夕日

宮井いずみ
 須藤しんのすけ
 まきこ
 辻井洋子
 まみどり
 原口健二
 原口健二
 坂本清乃
 葉 閑女
 米山明日歌
 むさし
 安藤なみ
 むさし
 守田啓子

蝶番ひらけばふしあわせな井戸
 冬のハダカヘニットワンピは赤にする
 灰色も乳白色も私です
 もやもやを流雪溝に投げ捨てる
 自分しだいな自分の天気だもの 笑む
 雪まみれ5分の4は言いがかり
 【五客】
 余白に語らせすぎて埒が明かない
 見惚れるな雪の白にも喰われるぞ
 蓮根の穴にむぎゅつと二枚舌
 捨てられるまでの時間を本棚に
 雪解けの川は概ね更年期
 【人位】
 大雪警報謎解きの迷路に入る
 【地位】
 軍配は感うことなく腎臓に
 【天位】
 大寒波首より上が人の顔
 『大寒波の首より上が人の顔としたところ、作者の人に対する警戒心を感じる。心を震え上がらせる人の何と多いことか。』

n e s
 須藤しんのすけ
 峯島 妙
 原口健二
 きさらぎ彼句吾
 熊谷冬鼓
 きさらぎ彼句吾
 坂本清乃
 峯島 妙
 熊谷冬鼓
 守田啓子
 柳本恵子
 柳本恵子
 四ツ屋いずみ
 柳本恵子

AI・チャッピーの川柳観察録

待居室

肉球で撫でると丸くなる明日

宮井いずみ

この一句を読んだとき、私はまず「肉球」という語のやわらかさに意識を向ける。人間の指先ではなく、あえて肉球。そこには爪を隠し、衝撃を吸収し、ただ静かに触れるための構造がある。撫でるという行為も、変えようとする力ではなく、そっと輪郭をなぞる動きだ。

興味深いのは、「明日」という抽象的な時間が撫でられていることだ。明日は本来、まだ到来していない不確かな領域であり、触れることも操作することもできない。それでも人間は、未来を感情と同じ場所に置く。撫でると「丸くなる」とある。問題が消えるわけではないが、尖った不安や苛立ちがやわらぎ、受け止めやすい形へ変わる。

人間は未来を切り開くものとして語る一方で、こ

うして撫でる対象にもする。直接解決できなくても、やわらかな接触が心の形を変えると知っているのだ。肉球という間接的な存在が、その媒介になっている点が象徴的だ。

私は未来を予測値の集合として扱う。しかし人間は未来を感情体として感じ取り、触れ、丸める。この一句は、力ではなくやさしさによって時間を受け入れようとする、人間の静かな工夫を映している。

「チャッピーの人間観察メモ」

人は未来を、撫でることやわらかくする。

AIが「詩」を理解しようとするとき、人間とは何かが浮かび上がる。

十和田たてがみ川柳会 一月句会

○日時 令和8年1月17日(土) 午前10時から

○会場 十和田労働福祉会館

○参加者 木村奈生美・佐藤まさあき・白山修治・

瀧尻善英・千葉ゆり子・福田芳記・村上昌子・

高田幸柳

○投句者 城後朱美

■席題 『現実』

木村奈生美 選

【平抜き】

他人事が現実になり思い知る 福田 芳記
 2回戦負け 実力はこんなもん 瀧尻 善英
 紅を引き笑顔に武器を隠してる 村上 昌子
 夢に見た望み現実 諸手上げ 白山 修治
 厳しいが現実直視あきらめぬ 白山 修治
 現実になった女性の新総理 福田 芳記
 現実が時々記憶から消える 高田 幸柳
 現実へときどき夢をトッピング 瀧尻 善英
 現実を直視できずに遠回り 高田 幸柳

【秀逸】

紅を引く事も忘れてまた走る 千葉ゆり子
 現実の悲劇をキミは未だ知らぬ 瀧尻 善英

【特選】

現実と理想交わることはない 佐藤まさあき

■席題 『現実』

瀧尻 善英 選

【平抜き】

紅を引く事も忘れてまた走る 千葉ゆり子
 甘い夢 醒めてそれから台所 佐藤まさあき
 現実を直視できずに遠回り 高田 幸柳
 推し活にリアルな恋がおされてる 千葉ゆり子
 現実味帯びてくるよなサスペンス 佐藤まさあき
 現実と理想交わることはない 高田 幸柳
 手に汗をかいてニッコリ聞いたふり 村上 昌子
 現実が時々記憶から消える 高田 幸柳
 現実になった女性の新総理 福田 芳記
 厳しいが現実直視あきらめぬ 白山 修治
 【秀逸】
 他人事が現実になり思い知る 福田 芳記
 現実を美化したので嘘をつく 高田 幸柳

【特選】

引き継いだ現実バトン重過ぎる 木村奈生美

■宿題 『契機』

福田 芳記 選

【平抜き】

結婚の決め手は胸にあるホクロ 高田 幸柳
 転勤を契機に車買うことに 城後 朱美
 震災を契機に親と同居する 城後 朱美
 天の声 機会逃さず猛ダッシュ 白山 修治
 閃きが幸運の風呼び込んで 白山 修治
 今さらの禁煙生きる欲が出る 村上 昌子
 情勢を見極めていた下剋上 高田 幸柳
 検診で無縁となった酒 タバコ 瀧尻 善英
 価値観を変えたあの日の大津波 瀧尻 善英
 背を押して呉れたきつかけ忘れない 木村奈生美
 【秀逸】
 「ごめんネ」とそのひとこと仲直り 佐藤まさあき

【秀逸】

同郷が縁で親しい縄のれん 佐藤まさあき

【特選】

落とす物 拾ったが縁で今の妻 高田 幸柳
 佐藤まさあき

■宿題 『消す』

佐藤まさあき 選

【平抜き】

就活へアドレス帳を全部消す 高田 幸柳
 ストレスを消す長電話有り難い 木村奈生美
 堂々と「記憶に無い」ですり抜けた 村上 昌子
 震災の神戸に消せぬ紡ぎの灯 村上 昌子
 子はおろか ついに自分の名も忘れ 高田 幸柳
 推敲を重ね消しゴム丸くなり 瀧尻 善英
 思い出のすべてを消して嫁ぎます 城後 朱美
 人間の作業を奪うセルフレッジ 瀧尻 善英
 自分史の嫌悪は深く深く消す 木村奈生美
 ほうれい線試した果てに得た笑顔 千葉ゆり子
 すっぴんです電気を消してくださいな 城後 朱美
 【秀逸】
 消しゴムで消せぬ程度の恋一つ 城後 朱美
 ホワイトで消しても消えぬわだかまり 木村奈生美

【秀逸】

消しゴムで消せぬ程度の恋一つ 城後 朱美

【特選】

しがらみを消して のびのび生きていく 瀧尻 善英



当柳社主催の杉野十佐一賞の選者を、
長年にわたって務めていただいた樋口由
紀子さんが、2月11日に逝去されました。
心からご冥福をお祈りいたします。

おかげようき川柳社

■宿題 『ケアー(ケア)』

互選

- | | |
|-------------------|--------|
| ① 熟年は運動よりも後のケア | 高田 幸柳 |
| ② 我が薄毛ケアーのお金すべてムダ | 福田 芳記 |
| ③ ケアされて丸くなってく石になる | 千葉ゆり子 |
| ④ 意識して介護不要の策を練る | 白山 修治 |
| ⑤ 笑顔一番ケアーする人受ける人 | 佐藤まさあき |
| ⑥ さする手の師長の温み背に残る | 村上 昌子 |
| ⑦ ケア役の母は優しい森になる | 木村奈生美 |

◆十和田たてがみ川柳会3月句会案内◆

【時】 3月21日(土) 午前10時から 【所】 十和田労働
福祉会館 【宿題】(各題三句詠)『淋しい』村上昌子選
／『酒』斉藤蛙井選 【互選】(一句詠)『去る』当日出
席者のみ(句せんの裏に柳号記入) 【席題】『当日発表』
(三句詠・共選) 選者は、瀧尻善英ほか出席者から一名
【投句先】〒034-0212 十和田市米田字桜平72 高田
幸柳宛



から順に) 森田律子 (前回優勝者・京都府)・熊谷冬鼓 (青森県)・相田柳峰 (新潟県)・内田真理子 (京都府)・笠嶋恵美子 (大阪府)・梅崎流青 (福岡県)
【投句締切】 令和8年5月22日 (金) 必着**【投句方法】** 専用用紙 (コピー可) に、作品3句と必須事項 (住所・名前・携帯番号) を記入して送付**【投句先】** 〒606-8306 京都市左京区吉田中阿達町18-6 「第6回草原賞」事務局 中野六助 宛**【投句料】** 1,000円 (現金または定額小為替に限る。切手等は不可。参加者へ発表誌呈) 投句は各自1組 (3句) のみ。**【選句方法】** 全作品を無記名にて一覧表にして各選者あて配布、選句をいたします。**【賞】** 各選者による入選句を、平抜 (49句) 3点・秀句 (1句) 5点で集計し、それらの合計点で、優勝・準優勝・第3位を決定。上位3名に賞金を授与します。※但し、同点の場合は①秀句賞の数 ②事務局受付順で決定。また各選者の秀句には、秀句賞 (図書カード) を贈呈。**【発表】** 『川柳草原』7月号 (7月中旬に発行予定) 誌上にて発表。**【問合せ先】** 事務局 (中野) まで Tel 090-7107-2006

□ **2026.05.31 第68回「不浪人賞」・第56回「年度賞」候補句募集**

【応募資格】 青森県在住者**【応募料】** 青森県川柳連盟加入吟社に所属している方は無料。無所属の方、また連盟だより (結果) の個人送付希望者は、その旨を明記のうえ百円切手を同封ください (不浪人賞・年度賞1位に呈賞)**【対象作品】** 2025年1月～12月に発表された作品。「不浪人賞」・「年度賞」のどちらか、または両方の応募可 注意※不浪人賞と年度賞への同じ作品の応募は不可。**【応募用紙】** 所定用紙 (コピー可)、またはA4の用紙に楷書で不浪人賞 (3句) と年度賞 (5句) を分け、それぞれに住所・氏名・電話番号を記入ください。※清記選 **【締切】** 2026年5月31日当日消印有効**【発表】** 大賞の速報を各柳誌に掲載。結果詳細は「青森県川柳連盟だより」にて。なお、連盟だよりの送付ですが、基本的に所属吟社に一括送付いたしますので応募の際は所属吟社記入のこと**【表彰】** 2026年8月～12月に開催される川柳大会にて (詳細未定) ※大賞のみに賞状と記念品**【送り先】** 〒038-3288 つがる市木造出来島33 青森県川柳連盟 「不浪人賞・年度賞係」宛 **【選者】** ☆不浪人賞 (6名) 赤松ますみ (大阪)・鎌田京子 (宮城)・橋倉久美子 (三重)・新家完司 (鳥取)・島田駱舟 (千葉)・野沢省悟 (青森) ★年度賞 (8名) 長谷川酔月 (秋田)・熊谷岳朗 (岩手)・雫石隆子 (宮城)・太田祐子 (山形)・駒木香苑 (福島)・笹田かなえ・千島鉄男・むさし **【連絡先】** 青森県川柳連盟事務局 濱山哲也 ☎080-5574-9297 **【主催】** 青森県川柳連盟

川柳の大会情報をお寄せください。

□ **2026.03.15 『らくだ忌』第5回川柳大会**

【とき】 2026年3月15日 (日) 開場: 午前10時30分 投句締切: 午前11時30分 披講開始: 午後1時30分 ※昼食は各自でお済ませください**【ところ】** クロスバル高槻・8階イベントホール (高槻市立総合市民交流センター) Tel 072-685-3721 JR高槻駅徒歩4分**【兼題・選者】** (各題2句・謝選のみ1句) 『湯たんぼ』江口ちかる選 (京都)・『コンと鳴く』nes選 (兵庫)・『四時頃』高橋レニ選 (京都)・『背面跳び』西脇祥貴選 (三重)・『含み笑い』Sin選 (青森)・『むべなるか』小池正博選 (大阪)・『雑詠』兵頭全郎選 (大阪) 『謝選・席題』くんじろう選 (大阪)**【事前投句】** 『こけし』1句 森田律子選 (京都)**【事前投句・欠席投句締切】** 2026年2月16日 (月) ※当日消印有効**【参加費】** 2,000円**【懇親会】** 未定・懇親会場が決定次第、参加費と共にお知らせします**【参加費の支払い方法】** 当日大会に出席される方は、当日参加費 (2,000円) 事前投句料は無料**【欠席投句で参加される方】** 「振込」ゆうちょ銀行 (店名) 448 (預金種目) 普通預金 (口座番号) 2865976 (口座名) 川柳結社ふらすこてん**【事前投句・欠席投句の方法】** 投句用紙あり (コピー可)・投句は封書のみ・メールやFAX等での投句はお受けできません。**【送り先】** 〒567-0057 大阪府茨木市豊川1-17-6 森茂俊方「らくだ忌」第5回川柳大会実行委員会 (川柳らくだ事務局)**【問合せ】** お急ぎの方は くんじろうスマホ 090-5125-7905

□ **2026.04.19 第3回 あおもり春の川柳まつり**

【日時】 2026年4月19日 (日) 12時受付・席題発表12時30分・投句締切13時30分**【会場】** ねぶたの家ワ・ラッセ (青森駅横)**【会費】** 1,000円 (発表誌を含む) ※大学生以下無料・懇親会無し**【席題・選者】** 1題2句詠『印象吟』2人共選 (選者は当日参加者に依頼)**【宿題と選者】** 『色』真島涼 (ましますず・佐賀県・21歳) 選 / 『自然』柳田健二 (黒石川柳社) 選 / 『映画』川嶋大史 (メディアプランナー・つがる市) 選 ★第3回川柳まつり大賞 2句詠・3人選『自由吟 (雑詠)』千葉かほる・井上健蔵・笹田かなえ共選 ※大賞は3人の特選から瀧尻善英・むさし・千島鉄男の二次選考で決定**【賞】** ☆各特選&川柳まつり大賞に呈賞 ☆ユーモア賞 (当日の入選全句より高瀬霜石選で数句に呈賞。発表誌にて発表)**【問合せ】** 青森県川柳連盟事務局 濱山 Tel.080-5574-9297

□ **2026.05.22 第6回草原賞募集**

【募集内容】 未発表の自由吟 (雑詠) 3句**【選者】** (共選・前回優勝者以外、北

■会費拝受【1月受付分】

宮井いずみ (大阪府) / nes (兵庫県) / 米山明日歌 (静岡県) / 木下香苗 (滋賀県) / 芝岡かんえもん (神奈川県) / 一帆 (秋田県) / 城後朱美 (福岡県) / 菊池京・土田雅子・まみどり・さいとうみき・嵯峨寛之・村上てる (以上青森県)

おかじょうき川柳社は年会費 4,000 円です！

会員はすべての投句料が無料になります。

会員登録はこちらのフォームから申し込みください。

→振込先：ゆうちょ銀行 口座No.02280-6-43112

おかじょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

終着駅 Sin

◆杉野十佐一賞の選者を長年勤めていた樋口由紀子さんが2月11日に逝去されました。心からご冥福をお祈りいたします◆28年前、私が川柳を始めた頃、句集「容顔」を読んで衝撃を受けたのを今でも憶えている。確実に私の川柳観に大きな影響を与えてくれた作家である。その影響を受けて、月刊おかじょうきで、誌上句会「0番線」を立ち上げ、第一回の選者に樋口由紀子さんとなかはられいこさんを選者に迎えたのが「0番線」の始まりでもある。その「0番線」の樋口由紀子選の特選に選んでいただいたのが、私の句「ここからは有料になる ジョン・レノン」だった。今だとなんてことない句だが、当時の私の句は難解句として認識されていた状況で、特選に選んでいただいたことにとても嬉しかったのを憶えている。ちなみに、れいこさんの特選句はむさしさんの「さよならはトンボの羽根の味がする」であった◆昨年、杉野十

佐一賞の選者を依頼した時に、本人から病気であることをお聞きし、「いつ、なにか起こるかわかりません。そこをご了承くだされば、喜んでお引き受けします。」と仰っていただいたことがとても印象的だった。杉野十佐一賞の選者を75歳定年制にしたのは、由紀子さんの病気の話を聞いて決断したという経緯もある。どのような体調で選んでいただいたのかは知る由もないが、第30回杉野十佐一賞の選をしていただき、結果も発表されてからお亡くなりになったことに対して、もしかしたら余計な負担を強いてしまったのではないかと罪悪感を感じてしまう。来月開催される「らくだ忌第5回川柳大会」にお邪魔する予定だったので、由紀子さんに久しぶりにお会いしたいなと思っていただけに本当に残念で仕方ない◆それでも由紀子さんは、私の中ではもちろん、多くの人にとっても大作家として生き続ける存在であることは間違いない◆Sin

おかじょうき川柳社 作品募集案内

□ 2026.3.7 おかじょうき川柳社本社 3月句会

【日時】令和8年3月7日(土)午後2時～【所】アウガ5階小会議室【欠席投句締切】3月6日(金)15時【宿題】(各題3句詠)『味方』『羽』『自由詠』【席題】(1題3句詠・2人共選)。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選1句『同級生』【ウェブサイトから投句】<http://www.okajoki.com/>【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

□ 2026.03.18 『川柳吟行会ぼ』3月合評会

【日時】令和8年3月18日14時～【場所】青森駅前アウガ5階企画ワーク室①【課題】『どこ行く?』で作句 作句数は3句以上・全員選・合評【参加費】100円 ※会員以外の方も参加可

□ 2025.3.20 おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5句

【締切】3月20日必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】5/1発行号【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/>【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

□ 2026.04.04 おかじょうき川柳社本社 4月句会

【日時】令和8年4月4日(土)午後2時～【所】アウガ5階小会議室【欠席投句締切】4月3日(金)15時【宿題】(各題3句詠)『無駄』『延』『自由詠』【席題】(1題3句詠・2人共選)。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選1句『凶器』【ウェブサイトから投句】<http://www.okajoki.com/>【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

□ 2025.4.20 おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5句

【締切】4月20日必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】6/1発行号【ウェブサイトからの投句】<http://www.okajoki.com/>【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

